

科目名	観光と民俗	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法学部	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Tourism and Folklore	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	かまだ ゆきお	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	鎌田 幸男	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	観光学とはどのような学問か、また観光に対して民俗文化が果たす役割について考える。			
到達目標	<p>観光と民俗文化の関りについて考える。</p> <p>1 近年の傾向として観光客は、伝統的な民俗文化の見学希望が多いという。なぜなのか。</p> <p>2 観光学とはどのような学問か。</p> <p>3 民俗文化財とはどのようなものか。</p> <p>観光は目的により異なるが、文化に触れることで幅広い教養に通じる。</p>			
授業概要	<p>観光は現代社会では大きな潮流になっている。観光客の来訪は経済効果に役立つという。国では2008年に観光庁を設置して21世紀の国づくりを目指した。国や地域を越えた交流を図り、相互理解の増進と文化の交流を通じて地域経済の活性化を図ろうとするものである。しかしコロナウイルスの影響で観光産業は振るわず経済的に苦しい状況に立たされたが、最近では回復傾向にあるという。観光客の増加は、経済的な波及効果があるという。それは活力ある地域づくり、地方創生にどのように役立つか、また問題点があるとすればどのようなものかを考える。観光客が興味・関心を持つ民俗文化とはどのようなものか。</p>			
授業計画				
第1回	オリエンテーション、講義の概要について説明をする			
第2回	観光とは、観光学とはどのようなことか、語源と定義を考える			
第3回	観光の歴史の変遷を考える 熊野参詣や伊勢参詣を事例とする			
第4回	観光の対象となる伝統的な民俗にはどのようなものがあるか考える			
第5回	歴史館、民俗館、資料館、美術館、郷土館などの役割について（雪国民俗館の見学）			
第6回	世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産について			
第7回	観光学と郷土学、地域学、歴史学、地理学、民俗学などとの関連について			
第8回	観光客はどうして伝統的な民俗行事に関心を持つのか、竿燈祭について（1）			
第9回	同上	男鹿半島の民俗行事・ナマハゲについて（2）	（小テスト実施）	
第10回	同上	鹿島行事について（3）		
第11回	伝統的な民俗行事の観光化について一積極的な考え方（意見交換）（1）			
第12回	同上	消極的な考え方（意見交換）（2）		
第13回	観光と民俗と地域創生との関わり			
第14回	伝統的な民俗文化は地域おこしに接続可能か。その課題は何か			
第15回	21世紀の観光について考える			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	<p>①伝統的な民俗文化を一つ取り上げ、それが観光化して地域おこしに接続するかどうか、レポートにして提出する。</p> <p>②秋田県にはたくさんの伝統的な民俗行事がある。見学してほしい。</p> <p>③博物館や資料館の見学をしてほしい。</p>			
履修条件	①授業の前には、必ず前の授業の振り返りしておく。			

受講のルール	②前向きな姿勢で授業に臨むようにする。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献・資料	「観光学」(2003、溝尾良隆)、「日本の民俗学」(1998、赤田光男他) 他に講義時に紹介をする
成績評価の方法	①定期試験(60%)、②小テスト(20%)、③レポート(10%)④ 授業の感想を簡単に書(10%)く。①②③④の総合評価とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月・火曜日(9:00~10:30) これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	学習したことはその日のうちに「まとめる、整理をする」ように心がけてほしい。それは知識になり残る。また次の授業への準備にもなる。習慣化してほしい。